

第3回 魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議資料

目次

次第 03

配布資料一覧 04

魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議設置要綱 05

アドバイザー名簿 06

資料1 第2回魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議での意見について 07

■ 第2回アドバイザー会議での意見（概要）

資料2 益川アドバイザー講話
「学ぶ力を引き出し、高める学校教育について」 12

■ （別紙）

資料3 魅力ある県立高校づくりについて 13

■ 今後の普通科の在り方について

- 1 現状・課題・論点
- 2 特色ある高校の事例

資料4 魅力ある県立高校づくりについて 16

■ 教育環境について

- 1 現状・課題 ～学びを取り巻く教育環境～
- 2 現状・課題 ～再編整備～

参考資料 別添

- | | |
|------------------------|----------------------|
| ①魅力ある県立学校づくりの方針（H28策定） | ⑦県立高校の特色化に向けたアンケート結果 |
| ②埼玉県5か年計画（ダイジェスト版） | について |
| ③埼玉教育の振興に関する大綱 | ⑧第1回アドバイザー会議での意見（概要） |
| ④第4期埼玉県教育振興基本計画 | ⑨男女共同参画苦情処理委員からの勧告に |
| ⑤国の第4期教育振興基本計画（概要） | 係る措置報告書 |
| ⑥高校教育に関する主な国の答申等（概要） | ⑩参考データ |

第3回 魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議

次 第

令和6年9月12日（木）15：00

場所：教育委員会室

- 1 開会
- 2 アドバイザー紹介
- 3 第2回魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議での意見について
- 4 魅力ある県立高校づくりについて
 - ・ 今後の普通科の在り方について
 - ・ 教育環境について
- 5 その他（事務連絡）
- 6 閉会

配布資料一覧

- 次第、配布資料一覧、アドバイザー会議設置要綱、アドバイザー名簿
- 資料1 第2回魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議での意見について
- 資料2 益川アドバイザー講話「学ぶ力を引き出し、高める学校教育について」
- 資料3 魅力ある県立高校づくりについて
～今後の普通科の在り方について～
- 資料4 魅力ある県立高校づくりについて
～教育環境について～

○その他参考資料

- ① 魅力ある県立学校づくりの方針（H28策定）
- ② 埼玉県5か年計画～日本一暮らしやすい埼玉へ～
（ダイジェスト版）
- ③ 埼玉教育の振興に関する大綱
- ④ 第4期埼玉県教育振興基本計画
- ⑤ 国の第4期教育振興基本計画（概要）
- ⑥ 高校教育に関する主な国の答申等（概要）
- ⑦ 県立高校の特色化に向けたアンケート結果について
- ⑧ 第1回魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議意見（概要）
- ⑨ 男女共同参画苦情処理委員からの勧告に係る措置報告書
- ⑩ 参考データ

魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議設置要綱

(設置)

第1条 魅力ある県立学校づくり推進委員会（以下「推進委員会」という。）における魅力ある県立高校づくりの検討事項について、有識者・関係者から幅広い意見を聴取するため、魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議（以下「アドバイザー会議」という。）を設置する。

(アドバイザーの選任)

第2条 アドバイザーは、学識経験を有する者、学校及び行政機関の関係者のうちから、埼玉県教育委員会教育長が選任するアドバイザー18名以内とする。

(アドバイザーの任期)

第3条 アドバイザーの任期は、令和7年3月31日までとする。

(会議の公開)

第4条 アドバイザー会議は、原則として公開とする。ただし、出席したアドバイザーの3分の2以上の多数で議決したときは、非公開とすることができる。

(運営)

第5条 アドバイザー会議の運営は、推進委員会委員長及び教育局県立学校部魅力ある高校づくり課において行う。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、アドバイザー会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、令和6年4月1日から施行し、令和7年3月31日をもってその効力を失う。

アドバイザー名簿

氏名	職業等	出欠	氏名	職業等	出欠
益川 弘如	青山学院大学教授	出席 (会場)	船橋 幸代	埼玉県P T A連合会副会長	出席 (会場)
小栗 貴弘	跡見女子学園大学教授	出席 (オンライン)	柿沼 光夫	久喜市教育委員会教育長	欠席
渡辺 大輔	埼玉大学ダイバーシティ推進センター 准教授	出席 (会場)	中村 敏明	宮代町教育委員会教育長	出席 (会場)
澁川 幸加	中央大学文学部教育学専攻特任助教	出席 (会場)	江原 勝美	所沢市立所沢中学校長	出席 (会場)
奥平 博一	角川ドワンゴ学園専務理事 N高等学校長	出席 (オンライン)	池田 靖	県立越ヶ谷高等学校長	出席 (オンライン)
萩原 裕子	FUTURE DESIGN 副代表	出席 (会場)	服部 修	県立秩父農工科学高等学校長	出席 (会場)
内田ひとみ	(株)HUGRES 代表取締役	出席 (会場)	岩田 輝子	県立狭山緑陽高等学校長	欠席
澤田 修	埼玉県商工会議所連合会 常務理事兼事務局長	出席 (会場)	川邊 友子	県立幸手桜高等学校教諭	欠席
関根 弘子	埼玉県高等学校P T A連合会副会長	出席 (会場)	中川 未来	県立春日部高等学校教諭	欠席

第2回魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議での意見について

第2回魅力ある県立高校づくりアドバイザー会議での意見（概要）

（1）今後の専門学科の在り方について

（企業の求める人材）

- ・ 人手不足が進み、デジタル化により生産性を向上することが求められる中で、AIなどを使いこなせるデジタル人材
- ・ 企業の海外展開が進む中で、グローバル感覚を身に付けつつ未来を切り拓くことができる人材
- ・ スタートアップに対応できるイノベーション人材
- ・ 実践的な技術や技能を身に付けた人材
- ・ 自ら課題を発見し、解決していく能力や自主的に学び続ける力、自律的なキャリア形成ができる力を持った人材
- ・ コミュニケーション能力や人柄、変化するスキルに対して挑戦していく意欲
- ・ 専門的な知識を一定程度持ちながらも、その知識をビジネスに生かせるコーディネーターのような役割を担う人材

（専門学科に求められる学び）

- ・ 細かく学科を分けずに大きくくくってコースを設定するなどの検討も良い。
- ・ 普通科と専門学科の併置校を増やしていくことは大事。専門学科の授業を普通科の生徒が受講できたりその逆も行うことで様々なニーズや総合型選抜にも対応できる。
- ・ 小・中学生のICTスキルが上がっている中で、デジタルコンテンツの制作などができるデジタル化に特化した学科があると良い。
- ・ 地域や産業のニーズ、学校の特色に応じて、教員免許に依存しない専門家の確保や実践的な指導ができる講座を持つことも良い。
- ・ 専門学科だけではないが、プロジェクト型の学びが充実し、失敗や試行錯誤しながら学ぶことが必要。様々な苦手や得意がある生徒がチームでプロジェクトを進める中で、協働することの大切さや多様性の尊重も学べる。
- ・ 高校生はこれからの進路に非常に迷う時期。沢山ある職業にどのように学びが接続していくのかということ産業界とも一体となって考えながら、自由度の高い学びが選択ができる仕組みが良い。
- ・ 実習や実験を動画で撮影し、生徒が繰り返し視聴しながら学習するなど、ICTを有効に活用することで、より専門性を深められる。
- ・ 学科間や校種を超えた学校間、あるいは地域や企業との連携した学びは大事。
- ・ 専門学科でも進学希望者が増えている。オンラインや共通のコンテンツなどを活用し、生徒のニーズに応じていくことが必要。
- ・ インターンシップなどのキャリア教育の充実が大事。

(専門学科の役割)

- ・農業科や工業科などそれぞれの専門分野の学びに対する期待と、地域の学校としての期待で異なったニーズがある。専門分野の学びに重点化する学校や、地域のニーズにより正対するような学校など専門高校にもそれぞれの特徴があって良い。
- ・専門学科は、生徒が自分の武器になる部分をしっかり確実に身に付けることができるという点で、今後も必要。一方で、進学希望者が増えている実情を踏まえ、生徒のニーズに合わせてシフトチェンジの姿勢も求められる。

(専門学科の広報)

- ・複数の学科が連携して共同のプロジェクトを行ったり、合同で成果発表会を開催するなど、高校生が他の学科の学びを知る機会や中学生にもPRできる機会を設けられると良い。
- ・専門学科は、卒業後は就職しかないというイメージを変えていく必要がある。
- ・学科名では学びの内容が分かりにくく、学校案内などの資料を読んでも分からない。学び方や学びの内容などをもっと広報して進学後のミスマッチをなくすことが必要。専門学科の学びを実際に体験した中学生は目を輝かせている。
- ・企業と連携した取組などをHPで発信しているが、なかなかうまく宣伝できていない部分もあり変えていけると良い。

(2) 多様な生徒のニーズに対応した学校について

(不登校経験者の受け皿や中途退学の未然防止となる学校)

- ・ 高校中退は若者の貧困につながる。若者の貧困を防ぐ上で「高校が最後の砦」。
- ・ 不登校経験のある生徒の受け皿となる高校を増やす必要がある。
- ・ 多部制定時制や通信制高校は不登校経験のある生徒にとっての受け皿となる。自分のペースに合わせて学べる高校ができれば良い。
- ・ 受け皿を作ると同時に、不登校経験の生徒や中途退学する生徒が多い学校で働く際の教員の意識改革や、不登校・中途退学の防止、早期発見・早期対応の取組も大事。

(特別な支援が必要な生徒と共生できる学校)

- ・ 高校での通級指導が充実していくと良い。県立高校8校で自校通級での指導が行われているが、他校通級や巡回方式での指導を検討しても良いのでは。
- ・ 特別な支援が必要な子供たちの高校進学を考えていくことは大切。
- ・ 特別支援学校の高校内分校とその高校の生徒が文化祭などで交流する機会があるのはすごく良い。高校生にとっても良い刺激になる。教員同士の授業見学や部活動交流などの取組がもっとスムーズに進むと良い。
- ・ 特別な支援が必要な生徒への対応には生徒の意思の尊重や周囲の理解が欠かせない。研修等で教員の理解を深めていくことが大事。

(LGBTQ生徒への支援)

- ・ トランスジェンダーの子供にとって、制服が着られなくて朝起きられず不登校になってしまうというケースも考えられる。制服について、柔軟な対応や様々選べるなどの取組は進んでいるが、制服の取扱いは重要。
- ・ LGBTQの生徒が学校の中で対等に見られるということが進んでいくと、より過ごしやすくなる。
- ・ LGBTQの生徒への対応には、その生徒の意思の尊重や周囲の理解が欠かせない。研修等で教員の理解を深めていくことが大事。

(日本語指導が必要な生徒への支援)

- ・外国籍の子供も非常に増えており、日本語指導も非常に難しい状況。そういう子供たちが日本語をしっかりと身に付けることが、日本の社会で生きていくために必要だが、日本語指導には、中学・高校6年間くらいの長さがないと十分対応ができないと思う。日本語がしっかりと身に付けられるよう中学校と高校の連携があっても良い。
- ・外国にルーツを持つ生徒が増えている中で、日本語支援員やオンラインを活用した指導のノウハウの共有などで教員の負担を減らせると良い。

(通信制やオンラインでの学び)

- ・通信制教育を受けても社会に出ればコミュニケーション能力は当然必要となるので、様々な形で交流できる場があると良い。
- ・通信制でも勉強が苦手な生徒もやりがいを持てるような授業づくりができるが良い。
- ・全日制・定時制・通信制それぞれで併修制度をもっと弾力的に活用するなど学びの共有が進むと良い。
- ・不登校経験のある生徒が、失敗を恐れずに安心して対面での教育活動などにもチャレンジできるような環境が、公立の通信制には求められているのではないか。
- ・教員研修や大学の教職課程ではほとんど通信制について扱わないのが現状であり課題。
- ・通信制やオンラインの活用など、学びの方法を多様化していくことが一つの方向性。公立の通信制は、全日制と多部制定時制などとの連携によってうまく単位を補完していくことで、今後その役割が増えていくのではないか。
- ・バーチャルの場やオンライン授業を受けられることはすごく良いと思うが、最終的にリアルを求める子供も多いと感じている。バーチャルやリアルの両方あることが必要。
- ・ICTやオンラインの活用により教科指導の在り方は変わっていくと思うが、教員の仕事がなくなることはない。生徒への対面的な指導やケア、進路指導などが一番必要な部分になってくる。教員は、コーディネーターやファシリテーターの役割を担っていく必要がある。
- ・海外の学校にもオンラインベースの学校はたくさんあるので、そういったところを自分の居場所として確立できる子供もいるのではないかと思う。オンラインというのは、一つの力強いツール。

益川アドバイザー講話

～学ぶ力を引き出し、高める学校教育について～

魅力ある県立高校づくりについて
～今後の普通科の在り方について～

今後の普通科の在り方について

1 現状・課題等

現状・課題

- ・公立高校に通う生徒の7割以上が普通科高校に在籍。文系・理系に分かれる中で、一人一人の生徒にとって、将来のキャリアに必要となる学習機会が確保しにくい状況を改め、生徒が多様な分野の学びに接することができるようにすることが重要。
- ・AI等の急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている中で、これまでの文系・理系といった枠にとらわれず、各教科等の学びを基盤としつつ様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結びつけていく資質・能力の育成が求められる。

国・県の計画等

教育振興基本計画（R5.6）

- ・探究・STEAM教育、文理横断・文理融合教育等の推進

高等学校設置基準・高等学校学習指導要領の一部改正：

- ・普通教育を主とする学科として、普通科以外の学科（学際領域学科・地域社会学科等）設置を可能とする制度改正（いわゆる普通科改革）

大学入試の在り方に関する検討会議提言（R3.7）等：

- ・学力の3要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力等、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）を多面的・総合的に評価する入学者選抜への改善
- ・志願者の資質・能力を丁寧にかつ確実に評価する総合型選抜や学校推薦型選抜の推進

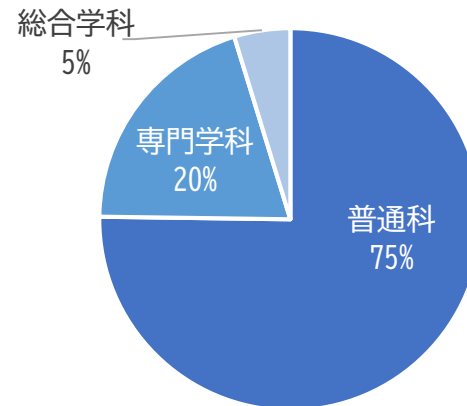
第4期埼玉県教育振興基本計画(R6.7)：

- ・教科横断的な学びや地域社会と連携・協働による学びの推進
- ・生徒・保護者の教育ニーズに対応するとともに、時代や社会、地域の要請に応え、持続可能な社会の創り手となる人材を育成するため、高等学校の特色化を推進 など

【論点】

- ◆生徒が多様な分野の学びに接し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結びつけていく資質・能力を育成するために、どのような県立高校（普通科）が必要か。
- ◆教科横断的な学びや探究活動を進める上でどのような視点を持っていくことが重要か。 など

公立高校入学許可候補者数割合（R6）



出典：令和6年度埼玉県公立高等学校入学者選抜実施状況

県立高校の特色化に向けたアンケート結果 ※参考資料⑦から抜粋

中学生 回答者数 33,208名

○高校に進学したら、どのような勉強をしたいですか。（5つまで選択）

選択が多かった上位3項目	割合
基礎・基本を確実に身に付けるための勉強	15.4%
様々な教科にまんべんなく取り組み、幅広い知識を身に付ける勉強	15.0%
実社会での活動に向けて、学んだ知識を総合的に活用し考える勉強	12.5%

中学生保護者 回答者数 21,993名

○今後の普通系科目を中心に学ぶ高校にはどのような学びが必要だと思いますか。（3つまで選択）

選択が多かった上位3項目	割合
実社会での活動に向けて、学んだ知識を総合的に活用し考える学び	15.4%
プログラミングやネットワークに関する知識や技術など情報技術の活用に重点を置いた学び	15.0%
様々な教科に満遍なく取り組み、幅広い知識を身に付ける学び	12.5%

概要

学際領域に関する学科を設置する高校の例

文理共創科

- ・普通科を改編し文理共創科を設置。文理共創科では、普通教科に関する授業に加え、教科横断型授業やSDGsの課題解決に向けた探求的な活動に力を入れた教育課程を編成。
- ・1年生でSDGsの知識・理解を深め、2年生で自由に選んだゴールに向けて自分たちにできることを研究、3年生で研究成果を後輩に伝え、継続研究の可能性を探るといった活動を実施。「学食にサステナブルシーフードを提供する日本初の高校」を目指す班など研究テーマは多彩。

文理探究科

- ・普通科の一部を文理探究科に改編。文理探究科では、自分が何を学びたいかに気付かせ、自己の進路決定に意欲的な行動をとれるようになることを目指し、探究活動を重視した教育課程を編成。
- ・3年間の探究的学びの成果を生かして総合型選抜などにも挑戦でき、一般選抜にも対応できる高い学力を身に付けさせる進学重視型。

STEAM探究科

- ・普通科（自然科学系コース）を単位制のSTEAM探究科に改編。企業や大学等との連携による先端技術を活用した探究活動を軸として、新たな価値を創造する力の育成等を目指した教育課程を編成。
- ・ドローンやVR等の先端技術に関する専門性の高い演習の実施や、1・2年次にはデータサイエンスや統計学なども学び、3年次には探究活動のプロセス・成果を映像や音楽などを用いて効果的にプレゼンすることを目指す。

地域社会に関する学科を設置する高校の例

地域共創科

- ・普通科に加え地域共創科を設置。地域共創科では、2・3年次において週1日、地域ならではの伝統文化や様々な事業所での探究実践など、地域を共創する一人として実社会の中で学べる教育課程を編成。
- ・実践から得る思いを共有し、しっかりと振り返る機会も設け次の地域貢献（実践）につなげている。

普通科 地域探究科

- ・これまでの普通科を「普通科 地域探究科」とし、地域産業や人材資源をフィールドに、生徒が関心をもつ地域課題についての探究活動に取り組む学校設定科目「地域デザイン」を導入。
- ・また、1年次からそれぞれが希望進路に応じた学習（ベーシック、アドバンス、ビジネス）ができる学校設定科目なども設け「一人ひとりの進路実現」と「地域と連携した探究活動」を充実させている。

その他

普通科・国際探究コース・バカロレアコース

- ・高校では普通科と国際探究コース、バカロレアコースを設置する併設型中高一貫校。国際探究コースでは、国際バカロレア教育のスタイルで、探究型学習を進め、高い英語運用能力と探究力、バランスの取れた国際感覚と行動力が育成できる教育課程を編成。
- ・そのほか、様々な国際教育プログラムを提供する学校がある。

魅力ある県立高校づくりについて
～教育環境について～

教育環境について

1 現状・課題 ～学びを取り巻く教育環境～

(1) 教職員の資質・能力の向上

- ・次代を担う生徒の育成のためには、教職員が自らの職責と学び続ける教職員としての在り方を自覚し、個性と能力を発揮することが大切。
- ・近年、教員採用選考試験の志願者数の減少や、未配置・未補充などの教員不足の課題が生じている中、優秀な人材の採用と育成に努めるとともに、教職員の学びや協働を充実させることが必要。
- ・また、教職員の人事評価制度を活用し、公正な人事管理や資質・能力の向上を図るとともに、教職員の不祥事を防止し、県民から信頼される教職員集団の形成が求められる。
- ・加えて、教職員の心や身体の健康を保持増進することが求められる。

第4期埼玉県教育振興基本計画 施策16「教職員の資質・能力の向上」より

(2) 「学校における働き方改革基本方針」に基づく、教職員が働きやすい環境づくり

- ・学校の直面する課題や役割が拡大していく中で、教職員への負担増や多忙化が指摘されており、教職員の長時間勤務の縮減を図り、子供と向き合う時間を確保し、教育の質を向上させることが大切。
- ・「退校時間」の設定などによる教職員の意識改革と活力向上を保護者・地域の理解と協力を得ながらの推進やICT化の推進などによる業務改善などを通して、教育活動の質の向上と、教員の負担軽減を両立させ、働き方改革を推進。
- ・また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家や、部活動指導員、事務職員など、教員以外の多様な人材との連携・分担体制の構築を通して、教育活動や学校運営を進める体制を構築することが求められる。

第4期埼玉県教育振興基本計画 施策17「学校の組織運営の改善」より

(3) 学校施設・設備の整備

- ・学校の教育力の維持向上のためには、安全で快適な学習環境を整備することが大切。
- ・学校施設の老朽化対策、脱炭素化、バリアフリー化、デジタルイノベーションへの着実な移行のためのICT環境の整備などが求められる。

第4期埼玉県教育振興基本計画 施策20「学校環境の整備・充実」より

選考区分

一般選考 特別選考に該当しない者 ▶ 主に大学4年生等

特別選考

障害者特別選考

教職経験者特別選考

セカンドキャリア特別選考

看護師等経験者特別選考

大学推薦特別選考

彩の国かがやき教師塾特別選考

R6New 大学3年生チャレンジ選考



埼玉県の目指す教職員の働き方



「日本一働きやすい」「埼玉の先生になりたい」

と言われる埼玉県を目指して

～「効率的で効果的な教育」「多様なワークスタイル」「未来の自分への投資時間の確保」の実現～

目標

学校における働き方改革基本方針

(令和4年4月1日～令和7年3月31日) ※令和4年4月改定

時間外在校等時間 **月45時間以内、年360時間以内**の教員数の割合を
令和6年度末までに **100%**に

2 現状・課題 ～再編整備～

(1) 魅力ある県立高校づくり(「再編整備の進め方」平成30年4月より)

これからの県立高校においては、時代の要請に応えられる創造性豊かな人材を育成するため、一層の活性化・特色化を図り、それぞれの学校のブランド力を高める必要があります。

県立高校の特色化

- 学校の現状、地域の状況などを見据えながら、県民や生徒、保護者のニーズに応える特色ある県立高校の設置に向けて、学校規模に関わらず学科再編や統合などを検討します。

県立高校の活性化

- 県立高校の教育の活性化の観点から、適正な学校規模*を下回る学校については、生徒募集の状況や地域の生徒減少率とともに、学校・地域の状況や取組なども考慮しながら近隣の学校との統合などを検討します。

*適正な学級規模

「1学年当たり8～6学級を標準とします。ただし、中学校卒業生数の減少が著しく、適正規模を確保することが困難な地域においては、地域の教育力の維持・向上の観点から、例外的に4学級程度までの規模とする場合があります。

(2) 県立高校の再編整備の状況

- 魅力ある県立高校づくりを進めるという観点から、全日制県立高校の学校数(平成30年度134校)を3期程度に分けて、令和11年4月を目途に121～124校程度に再編整備することとしている。
- 令和5年4月に、県立高校4校を2校に統合する第1期再編整備を行った。
- 現在、令和8年4月に県立高校12校を6校に統合する第2期再編整備に向けて、準備を進めている。
- 令和11年4月を目途に、更に△2～5校程度の再編整備を行う方針となっている。

(3) 今後の公立中学校卒業生数の見込み

- 今後の公立中学校卒業生数を予測すると、令和6年3月から令和20年3月までの14年間で、約59,000人から約44,000人へ約15,000人減少することから再編整備を検討する必要がある。

【論点】

- ◆生徒のより良い学びのために、教職員を取り巻く環境はどのようにあるべきか。
- ◆今後の再編整備を検討するにあたり、どのようなことに留意すべきか。 など

平成30年4月 魅力ある県立高校づくり実施方策策定に向けて(再編整備の進め方)

令和5年4月開校 【第1期】

- 地域産業を支える人材を育成する高校
- 進学を重視した地域と協働する高校



児玉高校
児玉白楊高校と児玉高校の統合



飯能高校
飯能高校と飯能南高校の統合

令和8年4月開校予定 【第2期】

- 国際感覚を身に付けたグローバル人材を育成する高校



和光新校(仮称)
和光国際高校と和光高校の統合

- アニメーション・美術分野で活躍できる人材を育成する高校



越生・鳩山新校(仮称)
越生高校と鳩山高校の統合

- ビジネス分野で活躍できる人材を育成する高校



岩槻新校(仮称)
岩槻高校と岩槻北陵高校の統合

- 先端産業分野で活躍できる人材を育成する高校



秩父・皆野新校(仮称)
秩父高校と皆野高校の統合



八潮新校(仮称)
八潮南高校と八潮高校の統合



大宮工業・浦和工業新校(仮称)
大宮工業高校と浦和工業高校の統合

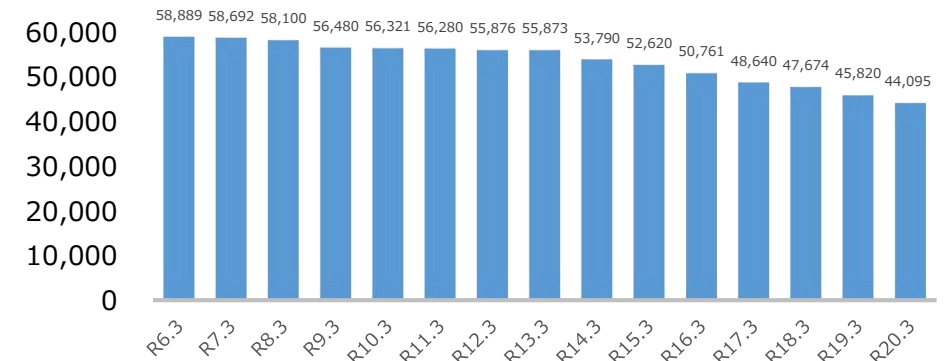
令和11年4月を目途

- ★上記の他に△2～5校程度の再編整備を行う



市町村立中学校卒業生数推計

【県全体】



※「義務教育人口推計結果報告書(令和6～11年度)」の中学校等推計生徒数第3学年から。R13.3以降は魅力ある高校づくり課による推計。